

新潟市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告書

(H27~H29)

新潟市保健衛生部 地域医療推進課



新しい「目」で、新しい「心」で、新しい「新潟市」

経過



H25 ----- 新潟市医療計画 策定 (H26~H32計画)

H26 ----- 在宅医療連携拠点モデル事業
在宅医療連携拠点整備運営委員会による検証

在宅医療ネットワーク

H27 ----- 第6期介護保険事業計画に「在宅医療・介護連携の推進」位置づけ
(新潟市地域包括ケア計画)

(イ) 課題抽出と対応策の検討 **H27.7.28設置**
「在宅医療・介護連携推進協議会」

H28 ----- (オ) 相談窓口の設置
在宅医療・介護連携センター／ステーション

(ア) 地域資源の把握

(ウ) 切れ目のない体制構築

(エ) 情報共有の支援

(オ) 相談支援

H29 -----

(カ) 研修

(キ) 地域住民への普及啓発

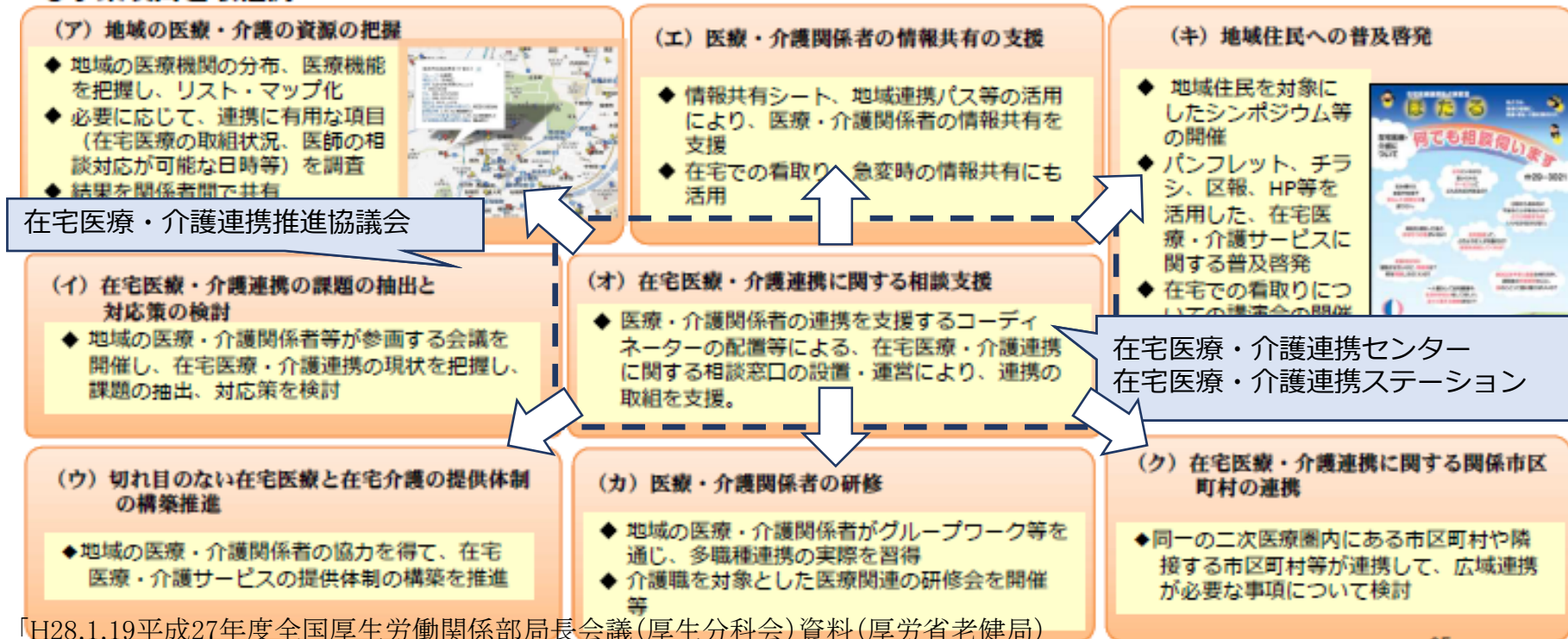
(ク) 関係市区町村の連携

在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。 → 新潟市介護保険事業計画の基本目標に位置付け（第6期）
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例



新潟市在宅医療・介護連携推進事業

業務計画書

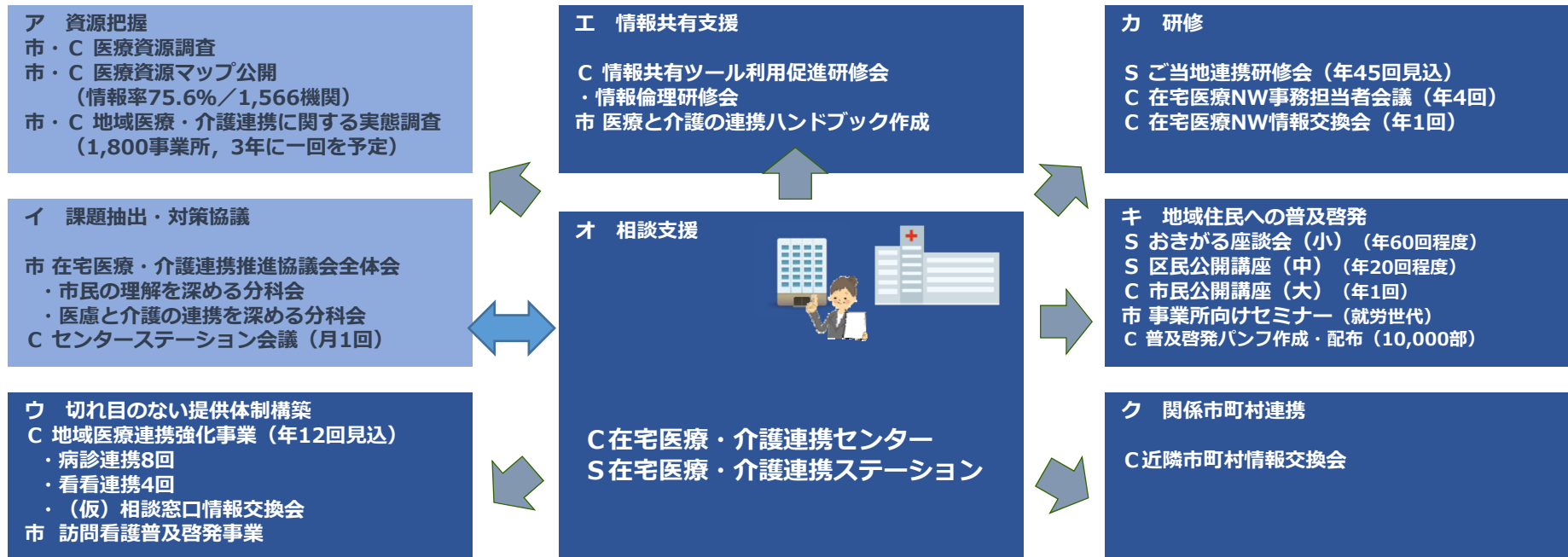
(H29)

具体的な取り組み

	年別実施等回数	実施年度			実施主体			特記事項 (H28との変更点等)
		H27	H28	H29	センター	ステーション	市	
(ア) 地域の医療・介護の資源の把握	1		調査	管理更新 追加調査	○			H28調査済 H29は更新管理等(一部追加調
	2	年1回			○			
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	3	全体会 2回 分科会 5回					○	
	4				○			
	5				○			
	6				○			
(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築	7				○			新規事業 在宅医療推進センターと連携
	8						○	新規事業
(エ) 在宅医療・介護関係者の情報の共有支援	9		作成	更新	○			
	10		(C)	(市)			○	実施主体 センター → 市
	11		(ST)	(C)	○			実施主体 ST → センター (実施内容によりSTと連携)
(オ) 在宅医療・介護関係者に関する相談支援	12						○	
	13						○	
	14						○	
	15						○	
センター（医師会）・ステーション（病院/診療所）・市								
(カ) 医療・介護関係者の研修	18	年6回 (×11ST)					○	「多職種連携研修会」と「医療・介護事業所出前セミナーを一体化。年6回とし、地域のニーズに即した研修会、情報交換会を実施
(キ) 地域住民への普及啓発	19	随時 (申込対応)	(ST)	(ST, C,市)	(○)	○	(○)	
	20	年2回 (×11ST)				○		新規事業 おおむね区域を対象に企画型で実施
	21	年8回					○	新規事業 夜間・休日開催
	22	1回				○		
	23	10,000部				○		H28新規作成 H29は更新等
	24			作成	更新	○		
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	25	1回 (その他随時参加)					○	

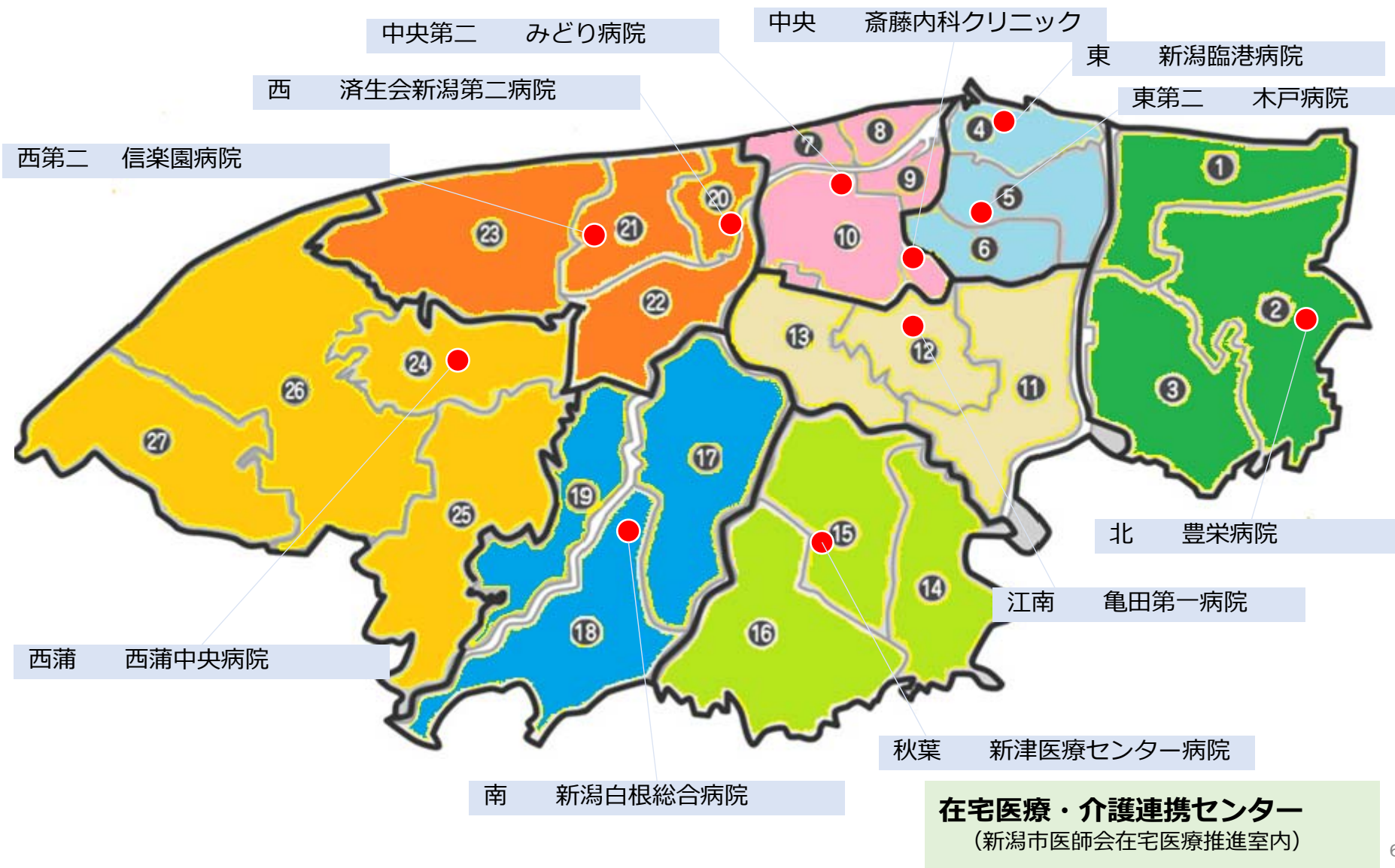
新潟市在宅医療・介護連携推進事業

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目を郡市区医師会等（地域の医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。



在宅医療・介護連携ステーション

11の「連携ステーション」



在宅医療・介護連携ステーション

11の「連携ステーション」

北	豊栄病院	H28.5～	ござれやネット事務局
東	新潟臨港病院	H28.3～	山の下ねっと事務局
東第二	木戸病院	H29.4～	ぽーちゅらかネット事務局
中央	斎藤内科クリニック	H28.4～	拠点事業実施者（～H28.3） にいがた在宅ケアねっと代表
中央第二	みどり病院	H29.4～	とやのがたネット事務局
江南	亀田第一病院	H28.6～	江南区在宅医療ネットワーク
秋葉	新津医療センター病院	H28.3～	新津地域医療福祉連携運営委員会代表
南	新潟白根総合病院	H28.5～	南区保健医療福祉のつながりを深める会事務局
西	済生会新潟第二病院	H28.4～	拠点事業実施者（～H28.3） にいがた西区地域連携NW事務局
西第二	信楽園病院	H29.4～	にしく赤・坂ネット事務局
西蒲	西蒲中央病院	H28.5～	西蒲区在宅医療NWの集い事務局

<スタッフの職種内訳>

	MSW	看護師	保健師	介護支援専門員	PT	事務・SE
センター	2		1			1
ステーション	15	4	1	1	1	2
計	17	4	2	1	1	3

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

① 医療資源調査の実施，資源マップ作成公開 (C)

- ・ H28.7月に市内の病院，診療所，歯科診療所，訪問看護ステーション，薬局 1,567事業所へ調査票を発送。H29.8月に更新調査を実施し、累積回収率75.6%
- ・ 連携センターホームページにおける情報公開（マップ・リスト）、STの相談事業等に活用

在宅医療と介護の連携をサポートする
新潟市在宅医療・介護連携センター

医療資源マップ

医療資源マップ 検索方法

STEP 1 地域を選ぶ
最初に右の検索中の条件より調べたい「地域」にチェックを入れてください。(複数選択可)

STEP 2 機関・施設の種類を選ぶ
続いて調べたい「機関・施設の種類」にチェックを入れてください。(複数選択可)

STEP 3 フリーワードでも条件指定可能
施設名・機関名・住所のいずれかを選び「フリーワード」を入力してください。(機関・施設の種類との組み合わせ可)

STEP 4

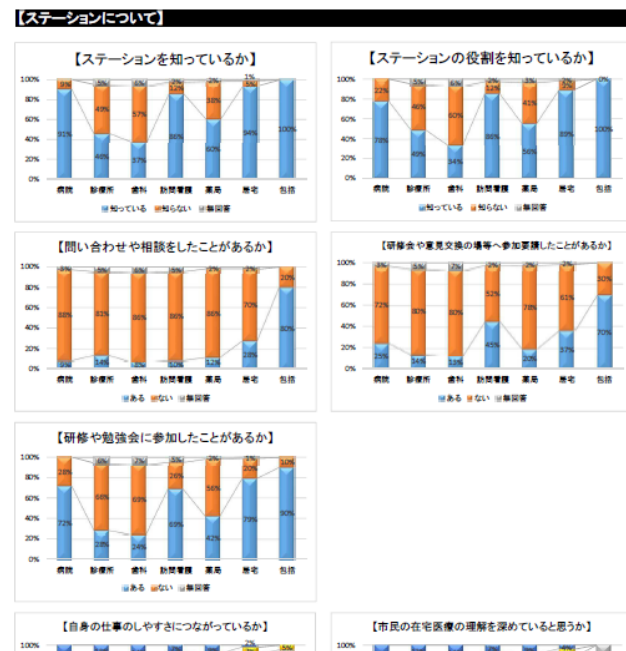
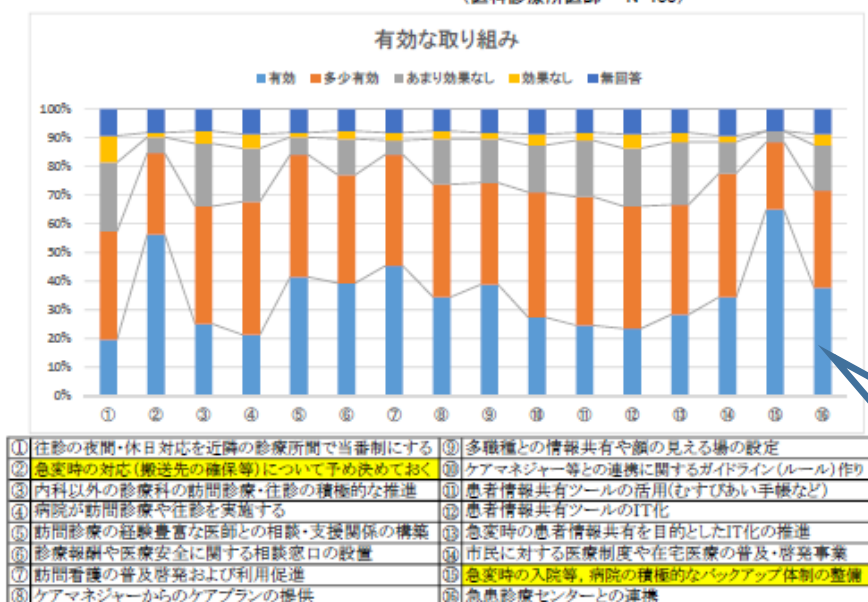
STEP1 地域を選ぶ
STEP2 施設の種類を選ぶ
STEP3 フリーワード検索可能
STEP4 検索結果を地図、リスト検索可能

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

② 「地域医療・介護連携に関する実態調査」 (アンケート) (C)

- ・市内の病院，診療所，歯科診療所，訪問看護ステーション，薬局，居宅介護支援事業所1,800事業所へ調査実施。H29年度はさらに地域包括支援センターへも実施。
- ・在宅医療・介護連携推進事業の取り組みの基礎資料や地域の医療・介護関係者へ情報提供する。
- ・連携センターホームページで公開
<http://niigata-rc.org/>

訪問診療の負担軽減や円滑な業務遂行のために有効な取り組みについて
(医科診療所医師 N=188)



訪問診療の負担軽減や円滑な実施のために有効な取り組みは？ (医師が回答)

- 「急変時のバックアップ体制の整備」
- 「急変時の対応について予め決めておく」
- 「訪問看護の普及啓発・利用促進」

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

① 在宅医療・介護連携推進協議会

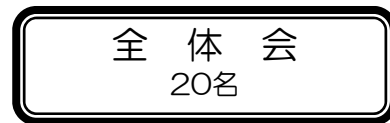


H27
 ●全体会 2回
 ●基盤整備分科会 5回
 ●多職種連携・普及啓発・人材開発育成分科会 4回

H28
 ●全体会 1回
 ●基盤整備・多職種連携・普及啓発分科会 4回
 ●人材開発育成分科会 4回

H29
 ●全体会 2回
 ●市民の理解を深める分科会 4回
 ●医療と介護の連携を深める分科会 3回

H29年度体系図



市民の理解を深める分科会

＜協議事項＞
 在宅医療の推進、かかりつけ医の普及、看取りなど市民への普及啓発に関すること

＜メンバー＞10名

医療と介護の連携を深める分科会

＜協議事項＞
 在宅医療の推進、在宅医療・介護連携のために必要な多職種連携・人材開発育成に関すること

＜メンバー＞10名

平成29年度開催状況

第1回全体会 H29.5.26	●在宅医療・介護連携推進事業について ●市における「支え合いのしくみづくり」
第1回分科会 (市民)H29.7.3	●市民への在宅医療・介護への理解を深める活動等について
第1回分科会 (医介)H29.7.4	●「(仮称)新潟市医療と介護の連携ハンドブック」について
第2回分科会 (医介)H29.10.24	●「(仮称)新潟市医療と介護の連携ハンドブック」について●平成30年度在宅医療・介護連携推進事業について
第2回分科会 (市民)H29.10.25	●市民へ在宅医療・介護への理解を深める事業についてグループワーク
第3回分科会(市民)H29.12.21	●市民の理解を深める事業について(地域包括ケア推進課、地域包括支援センターより取り組み紹介)
第3回分科会 (医介)H30.2.23	●「新潟市医療と介護の連携ハンドブック」について●「地域医療・介護連携に関する実態調査」結果報告
第4回分科会 (市民)H30.3.12	●市民意識調査のクロス集計結果について ●平成30年度市民の理解を深める事業について
第2回全体会 H30.3.23	●事業実績報告(H27~H29) ●29年度協議会活動報告 ●30年度協議会活動計画

○委員20名

大学・市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会・県MSW協会
 ・県訪問看護ステーション協議会・県介護福祉士会・県理学療法士会
 ・市社会福祉協議会・市民生委員児童委員協議会・コミュニティ協議会
 ・地域包括支援センター・病院・在宅医療連携拠点事業実施者・在宅医療ネットワーク代表

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

②センター・ステーション会議 (C)

⇒毎月（第1水曜）開催。

【目的】

- 相談内容と支援方法の共有とふりかえり
- 研修会等の実施方法の検討および
実施状況の共有
- スキルアップ研修 etc…



センター・ステーションスタッフの職種 (H30.3月現在)

	MSW	看護師	保健師	介護支援 専門員	PT	事務・SE
センター	2		1			1
ステーション	15	4	1	1	1	2
計	17	4	2	1	1	3

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築

②訪問診療医研修医事業 (C)

⇒開業医、病院医師等を対象に在宅医療の理解を深めるとともに訪問診療開始時に必要な知識や他の職種の専門性などを習得することを目的に実施。H28：3回

第1回 H28.8	「静岡市の医療連携（病診連携と在宅医療）」 静岡市静岡医師会 会長 袴田 光治氏	計54名うち医師25名参加
第2回 H29.3	「岡山市北部地域病診医介連携ネットワーク」 御津医師会 会長 大橋 基氏 「岡山市における医療・介護連携の取組み」 岡山市保健福祉局 審議監 福井 貴弘氏	計47名うち医師16名参加
第3回 H29.3	「医療介護連携における新潟市と新潟市医師会の一体的な取組」 新潟市在宅医療・介護連携センター 永井 明彦氏 「救急医療を取り巻く最近の情勢について」 新潟市消防局 救急課 課長補佐 伊藤 精一氏 「西区における病院間の連携強化に向けて―地域連携室の取組―」 西区病院連携実務者の座談会 済生会新潟第二病院 地域医療連携室室長 大湊 愛子氏	計48名うち医師17名参加



(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築

①地域医療連携強化事業 (C)

⇒各地域での具体的な医療連携の取組み構築を目指し、
 病病連携・病診連携・看看連携強化を目的に実施。 H29:9回



第1回 H29.7	北区の医療連携を考える！ 1. 話題提供「①精神科救急医療について」「②在宅医療バックアップシステムについて」「③救急医療を取り巻く最近の情勢について」ほか 2. 意見交換	62名 (病院40・診療所10・行政医師会12) 医師15名、区内4病院看護部長等
第2回 H29.11	中央の医療連携を考える！ 1. 話題提供「①医療介護連携における新潟市と新潟市医師会の一体的な取組み」「②救急医療を取り巻く最近の情勢について」2. 意見交換「各病院における連携に関する取組み、強みや考え方」	61名 (病院49行政医師会12) 医師12名、経営管理層多数参加
第3回 H29.12	江南区の医療連携を考える！ 1. 話題提供「①医療介護連携における新潟市と新潟市医師会の一体的な取組み」「②救急医療を取り巻く最近の情勢について」2. 講演「地域医療における当院の役割」3. 意見交換	34名 (病院13・診療所10・行政医師会11) 医師15名
第4回 H30.3	東区一般病院病院長会議 【東区一般病院病院長会議】1. 各病院からご発言「自院の現状(病床の活用や病病・病診連携、強みなど)」2. 東区の医療連携を考える！の会の持ち方について	12名 (病院7・行政医師会5) 院長3名、連携担当4名
H29.6	東区看護職の集い 1. 話題提供「退院した患者さん(利用者さん)を看護の連携で支えるってこんなこと」 2. おきがるトーク「ちょっと気になるそれぞれの職場」	55名 (病院9・診療所9・訪問看護16・介護10・包括6・行政5)
H29.10	中央区・看看連携(関屋・白新&ふなえ圏域) 1. 講演「看一看でつなぐ褥瘡管理」2. グループワーク	45名 (病院6・診療所6・訪問看護7・介護11・包括、居宅9・行政等6)
H30.3	中央区・看看連携(宮浦東新潟&姥ヶ山圏域)	(集計中)
H29.9	看護師が支える地域の医療～各病院看護の取組み～(西区) ①話題提供②3病院の報告とディスカッション「病院から地域に向けた取組み」③ミニレクチャー(摂食嚥下障害、皮膚・排泄ケア、感染管理、糖尿病看護)	62名(内訳集計中)
H30.3	考える力・豊かな想像力～その先の患者さんのために～ 第一部「考える力 豊かな想像力～その先の患者さんのために～」第二部「事例を通して問題解決能力を高めよう！」	(集計中)

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築

③ 訪問看護普及啓発事業 (市)

⇒潜在看護師 (学生・休眠看護師等) や病院看護師、市民を対象に訪問看護、在宅医療への理解を深めること、また組織や職場を越えて看護の役割について、相互理解を深めることを目的に開催

H27.6	住み慣れた地域で暮らし続けるために ～訪問看護と暮らしの保健室の取り組みから～ (株) ケアーズ代表取締役・白十字訪問看護 ステーション統括所長 秋山 正子さん	282名 (内看護職 89名)
H27.11	地域包括ケア推進における看護職の役割について 日本看護協会 齋藤 訓子 常任理事	95名 (内看護職 95名)
H28.5	「今、看護職に求められていることとは ～看護職だからこそできる支援～」 在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス 宇都宮 宏子 先生	146名 (内看護職 146名)
H30.2	「高齢のがん患者における 地域包括ケア病棟の退院事例」 (燕三条会場) 「複合的な疾病を持つ患者における 回復期病床からの退院事例」 (新潟会場) 在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス 宇都宮 宏子 先生	151名 (内新潟 会場78名)

新潟市在宅医療・介護連携推進事業 × 福祉・介護・健康フェア

CanCanミーティング
～看護がつなく地域包括ケア～

新潟市では、市民が住み慣れた地域で最期まで安心して暮らし続けるために、在宅医療・介護連携推進事業に重点的に取り組んでいます。

在宅医療・介護連携推進事業 (新潟市と燕・弥生医療介護センター共催)

CanCanミーティング
～看護がつなく地域包括ケア～

最期のときまで住み慣れた地域で暮らし続けるための支援を行うには、その人の地域での暮らしぶりや思いに寄り添う必要があります。入院して医療選択の場面はその人の人生の大きな岐路となりますが、様々な場所で働くナースが連携することは、その人の思いをつなぎ、安心して暮らし続けることが叶う手立てになることでしょう。本会は、事例検討を通じ、組織や職場を越えて看護の役割について相互理解を深め、共に考え実践できる力を養うことを目指すものです。

※燕三条会場では高齢のがん患者における地域包括ケア病棟の退院事例、新潟会場では複合的な疾病を持つ患者における回復期病床からの退院事例を扱います。

燕三条会場 平成30年2月13日 (火) 17時00分～20時00分
燕三条地域産業振興センター・リサーチコア
マルチメディアホール (三条市須崎1丁目2番地)

新潟会場 平成30年2月14日 (水) 13時30分～16時30分
新潟市東区プラザ ホール (新潟市東区下木戸1丁目4-1)

講師：在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス
宇都宮 宏子 (つづみや ひろこ) 先生

【講師略歴】
1959年福井出身。1980年 京都大学医療技術短期大学部 看護学科卒業
医療機関で看護師として勤務。高松の病院で訪問看護を経験し在宅ケアの世界に入る。
1992年、京都の訪問看護ステーションで勤務。介護保険制度創設時、ケアマネジャー・在宅サービスの官に合わせた専門的な介入の必要「看護師」として活動。
2012年4月より、『在宅ケア移行支援 地域の医療介護連携センター』を中心に活動。

◆申込み 2月5日 (月) までに、電話「参加申込」
新潟市地域医療推進課までFAX又はメ
(新潟近郊の方も燕三条会場へ、燕三条近
◆定員 各会場100名 (先着順)
◆対象 新潟市、燕市、弥生村、三条市又は近隣
看護職 (病院・訪問看護ステーション・介護

●主催 新潟市、燕・弥生医療介護センター
●後援 新潟県、新潟県看護協会

在宅医療 未来見据え
地域ぐるみで支える
看護師集い実例学ぶ
ごっけが落ちてオチもつく

H29.6.3新潟日報

(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援

① 「新潟市医療と介護の連携ハンドブック」

⇒ 「地域医療と介護連携に関する実態調査」の声をもとに、地域と病院の連携に焦点をあて作成。

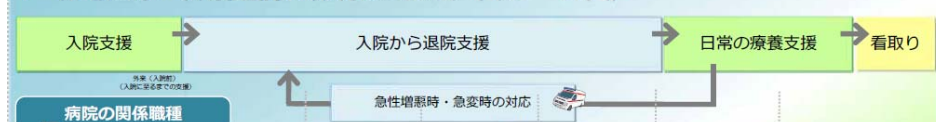
平成30年度以降、ステーション・センターが実施する各種研修や各職種・事業所における研修などで活用していただくことを積極的に働きかける。
連携センターおよび市ホームページでダウンロード可能。

2 新潟市における医療・介護連携『10の心得』

市民が医療や介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で安心して療養生活を送れるように、医療と介護の全ての専門職が共通する価値や向かうべき方向を示した行動指針として「新潟市における医療・介護連携『10の心得』」を策定しました。

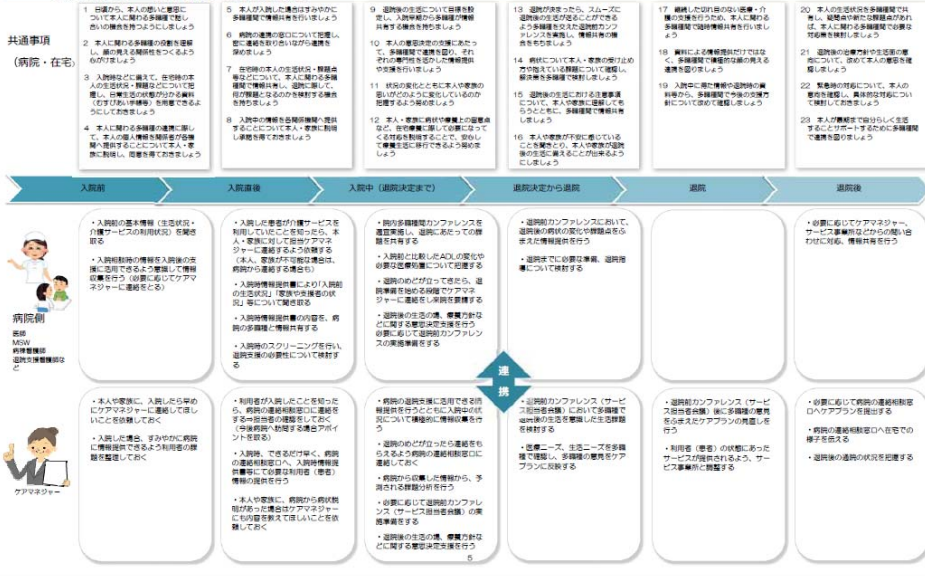
- 1 (市民の権利の尊重)** 医療・介護関係者は、市民をかかえのまない存在として尊重し、市民の権利を守ります
- 2 (市民の意思の尊重)** 医療・介護関係者は、市民が自らの希望を実現できるように市民の自己決定を尊重します
- 3 (市民との信頼関係の構築)** 医療・介護関係者は、市民自らの意思に基づいた判断ができるように、市民と信頼関係を築きます
- 4 (市民の意思決定の支援)** 医療・介護関係者は、市民がより良い選択ができるよう、専門職として市民へ必要な情報提供を行います
- 5 (市民の意思の共有)** 医療・介護関係者は、市民自らが決めた意思を関係者間で共有します
- 6 (関係者間の目的共有)** 医療・介護関係者は、市民の意思に沿った支援を行うことができるように、関係者間で目的を共有します
- 7 (関係者間の連携・協働)** 医療・介護関係者は、市民の意思実現のために、共通の目的を持ち、目的達成のために多職種で連携を図り、協働します
- 8 (専門性の尊重)** 医療・介護関係者は、それぞれの専門職に対して敬意を持ち、専門性を尊重します
- 9 (専門性の相互理解)** 医療・介護関係者は、互いの専門性を理解できるように、自身の職種を持つ専門性を伝えます
- 10 (秘密の保持)** 医療・介護関係者は、市民のプライバシーを尊重し、情報管理に細心の注意を払い、秘密を守ります

4 在宅医療・介護連携の体制について (イメージ図)



3 入院前から退院後までの連携フロー

連携のポイント…『10の心得』をもとに考える

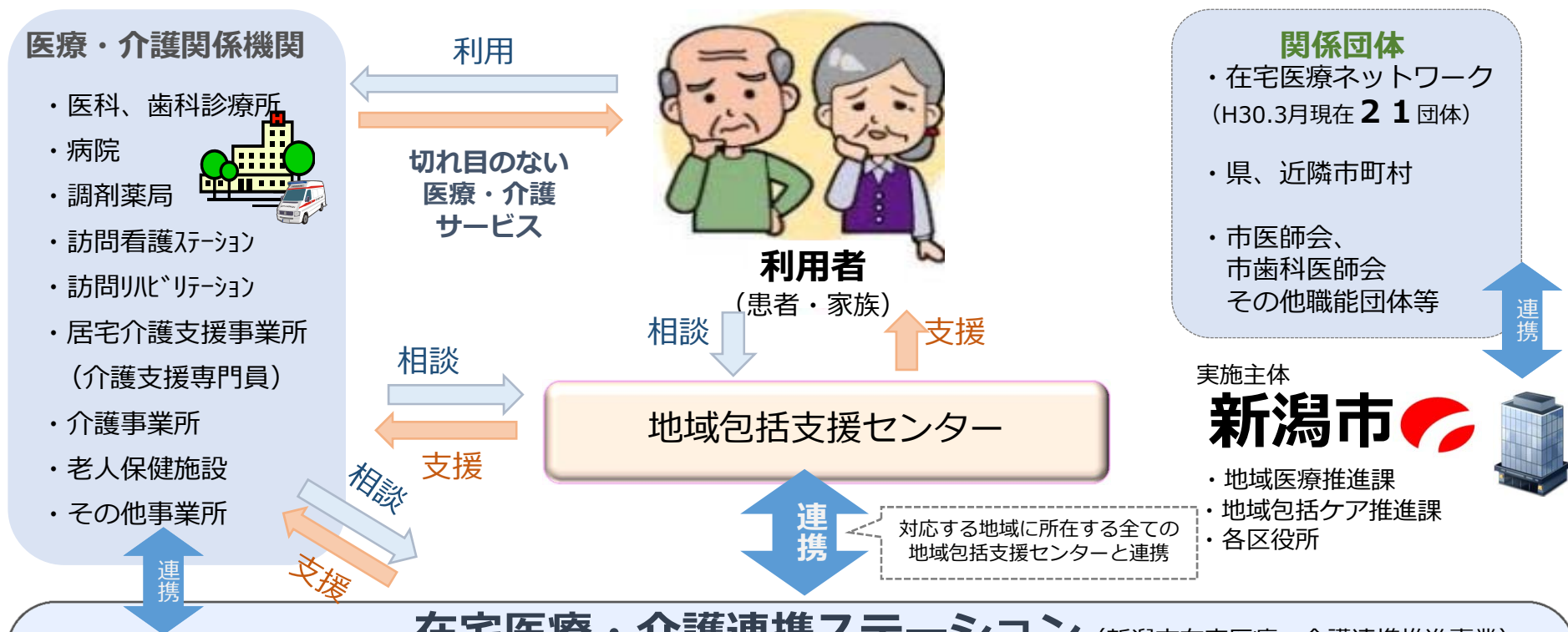


(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援

② 情報共有ツールの利用促進に向けた使用方法等説明会

⇒医療と介護の連携を目的として地域で活用されている「むすびあい手帳」や「SWANネット」の活用事例、情報交換会を実施。

(才) 在宅医療・介護連携に関する相談支援



在宅医療・介護連携ステーション (新潟市在宅医療・介護連携推進事業)

- ◆ おおむね各区単位に設置
- ◆ 基幹型として新潟市医師会内に「在宅医療・介護連携センター」を設置

<職員>

介護保険の知識を有する看護師・医療ソーシャルワーカー

<主な機能・役割>

- 地域の医療・介護関係者等からの在宅医療・介護サービスに関する相談を受け付ける (市民からの相談は原則、地域包括支援センターが対応)
- 地域包括支援センターや在宅医療ネットワーク等と連携し、医療と介護の『顔の見える関係づくり』をサポートする

<具体的な取り組み>

- 多職種の顔の見える関係づくり
- 各種研修・勉強会の開催
- 市民啓発
- 医療・介護関係者への相談支援、情報提供

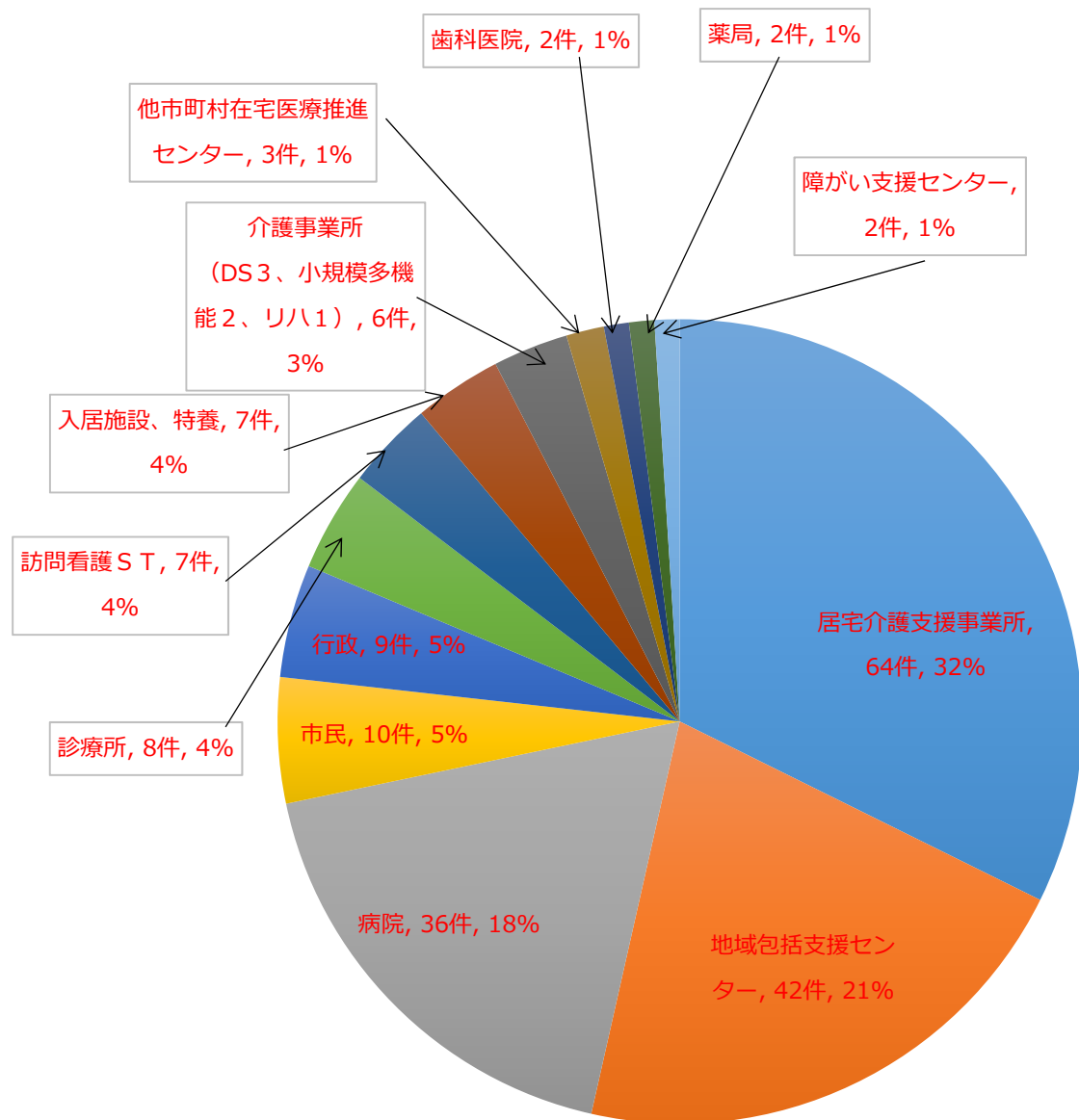
～医療と介護の連携をサポート～



(才) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

【相談者の所属】 N=198

<H28.4.1 ~ H29.3.31>



居宅支援事業所からのおもな相談内容	
訪問診療に関すること	10
往診に関すること	10
ショートステイ中の医療について	8
他科、他医療機関への変更について	5
病状管理に関すること	4
療養型の選定や手続きに関すること	4
訪問看護に関すること	3
透析患者のショートや通院方法	3
難病に関する制度、入所、レスパイト	3
ケアプランの相談	3
精神科疾患への対応	2
専門医療機関の紹介	2
医師の介護保険制度に関する理解について	2
医療スタッフとの関わり方	2
転院・入所先について	2
その他	10

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(MSW)
がん末期のケース。訪問診療医を
紹介してほしい。

(ケアマネジャー)
退院後、長期でショートステイを利用予定。訪
問診療を依頼したい

(地域包括支援センター)
医師と折り合い悪く治療中断した精神疾患の方
の新たな受診先について

(医師)
地域包括支援センターの役割を教えてください

(ケアマネジャー)
在宅療養支援診療所以外で看取りまで対応して
くれる診療所について。

(ケアマネジャー)
〇〇歳、心腎機能低下、栄養不良、脱水あり。
訪問診療でどこまで対応してもらえるか

(市民)
要介護の母が主治医と上手くコミュニケーション
がとれず不安を抱えている。

<相談支援件数>

H27年度 (1~3月)	H28年度	H29年度 (※2月末現在)
6	198	163

(力) 医療・介護関係者の研修

①ご当地連携研修会 (ST)

みんなで学ぶ
みんなで教える

新潟市在宅医療・介護連携ステーション東 「ご当地連携研修会」

参加
無料
未定稿

医療と介護 リレー学習会

新潟市在宅医療・介護連携ステーション東と山の下地域包括ケアネットワークでは、2017年度より共同で「医療と介護リレー学習会」を年4回の予定で開催します。

この学習会では、地域の医療・介護関係者が交替（リレー）で講師になり、ご自身の専門・得意分野について約20分のミニレクチャーを行います。

地域の専門職の皆さんでリレーを重ねて「みんなで学ぶ、みんなで教える」会にしましょう！

日時 2017年 6月8日 (木)

時間 19:00～ (20:30終了予定)

会場 東区プラザ 多目的ルーム2 (区役所2階)

定員 60名 (登録先着)

※多機関多職種相互理解を目的とするため、全時間参加を原則とします

1時間目 19:00～19:30 医療 (おもに医師) の時間

看取りについて

阿部胃腸科内科医院 院長/山の下ねっと 代表
阿部 行宏 先生

2時間目 19:30～20:00 医療 (医師以外) または行政 の時間

「要支援」の方のサービスは4月からどうなったの？

介護予防総合事業について

東区役所 健康福祉課 高齢介護係 係長
北村 明弘 先生

3時間目 20:00～20:30 介護・福祉 の時間

多様化した通所介護について

介護報酬改定が迫るなかデイサービスの今後は？

秋葉デイサービスセンターきやすと 施設長
藤田 剛史 先生

参加登録 | インターネットでの登録制です

以下のURLを入力するか、右のQRコードを読み取って専用フォームのページにアクセスし、必要事項を送信してください

URL <https://goo.gl/forms/pYhySM3SuPJOUK0Z2> ※必ず印刷

締切 | 5月31日 (水) 但し定員に達し次第締切

主催 | 新潟市在宅医療・介護連携ステーション東 共催 | 山の下地域包括ケアネット (山の下ねっと www.yamanoshita.net)

問合せ先 | 新潟市在宅医療・介護連携ステーション東 (新潟臨港病院 地域連携センター内) TEL 364-7321 / E-mail higashi-station@rinko-hp.com

北区の医療と介護のささえあいネットワーク

在宅医療と介護に役立つ **元気塾!**

A講座 (塾長) 知行先生 の「**心臓と仲良くせう!**」30分

増病院 院長 増知行 医師

冒険が前提です! 私は、循環器を中心とした内科診療をしています。大学時代が主に心臓病や肺心病の診療をしていましたが、開業から15年たった今、心臓病や心不全が多いことを再認識しています。講座では、「心臓病」「心不全」の2つを中心にお話させていただきます。

お楽しみに!

B講座 (副塾長) 葉穂子さん の「**連携のこつ!**」(20分)

「専門職どうしの連携は難しい?」連携センター&ステーションがお手伝いします～
新潟市医師会 在宅医療推進センター 推進員 葉穂子 看護師、主任介護支援専門員

職種・経験・知識等の違いによって、連携への意欲や連携方法にも違いがあるようです。連携が難しい、ある具体的なケースをも「連携」をキーワードに課題解決をめざしましょう。

C講座 (塾教育) 藤原が伝えたい「在宅医療に必要な役割」

「在宅医療での、より良い剂型選択とは?」(15分)

はあとも薬局 市橋達子 薬剤師

薬剤師はH20 職種に分類され、私は、薬の服用の「何でも情報提供」を自覚しています。最近では患者の「アドボカシー」としても活躍しています。皆さんの「お薬の指導」が期待されています。どうも、お声かけ下さい! 北区の薬剤師はH20年度に選抜されたことになりました。

とき: 9月6日 (火) PM7時～8時半まで

ところ: 豊栄病院 2階 (多目的ホール)

POINT 連携ステーションが地域のニーズを聞き取り、地域の特性に応じて企画・実施!
H29: 58回開催

20

(カ) 医療・介護関係者の研修

①ご当地連携研修会

POINT 連携ステーションが地域のニーズを聞き取り、地域の特性に応じて企画・実施！

西蒲区在宅医療・介護多職種連携研 「西蒲区の病院を知ろう！」

日時 平成29年4月27日(木)19:00~20:30(受付18:30)
会場 西川多目的ホール
新潟市西蒲区管根2046番地 TEL.0256-88-0002
申込 裏面の申込用紙をFAXしてください。
締切 4月24日(月)
参加費 無料

第1部 19:00~
新潟市・西蒲区における多職種連携について
新潟市在宅医療・介護連携センター 鎌道 奈穂子 氏
在宅医療・介護連携センター・ステーションの取り組みや医療資源のつくり、西蒲区内の在宅医療資源の概要、SWANネットの展開などいただきます。

第2部 19:15~
西蒲区の病院を知ろう！
西蒲区4病院の医師、MSWから診療の特徴や入院患者の入れ体制、連携窓口の紹介、MCS及びSWANネットの状況など、これからの連携に役立つお話をさせていただきます。
・岩室リハビリテーション病院
回復期病棟担当 丸山 聡一 先生 MSW 前田 美穂子 氏
・湯東けやき病院
MSW 保刈 智子 氏
・新潟西蒲メディカルセンター病院
院長 川口 正樹 先生、MSW 遠藤 弘子 氏
・西蒲中央病院
理事長 江部 和人 先生、MSW 梅川 望

4病院の発表終了後、質疑応答や意見交換を予定しています。あらかじめお聞きに伺い可やご意見がございましたら、申込書に記載をお願いします。

主催 新潟市在宅医療・介護連携ステーション西蒲
(西蒲中央病院地域連携相談室内)
西蒲区旗屋731番地 TEL.0256-88-0022/FAX 0256-88-0033
E-mail soudan@misatoka.or.jp

新潟市在宅医療・介護連携ステーション中央
ご当地連携研修会

アドバンス・ケア ・プランニング

~さまざまな病期における意思決定支援~

日時：平成30年3月29日(木)19:00~20:45

会場：新潟市総合保健医療センター2階
(新潟市在宅医療・介護連携ステーション)

講師：新潟大学大学院保健学研究科
医学部保健学科
工学部人間支援感性科学プログラム
坂井さゆり 先生

お問合せ ※3/23までに裏面申込用紙にてFAX又はメールでお申し込み下さい
TEL:025-211-3930・FAX:025-287-6688
Email: zaitaku@smc-kanwa.jp

主催：新潟市在宅医療・介護連携ステーション中央
共催：新潟市在宅医療・介護連携ステーション中央第二
「いしがた在宅ケアねっと」

在宅医療・介護連携ステーション西・西蒲二 ご当地連携研修会

住み慣れた地域で 人生の最後まで 過ごせる社会を目指して

~死を前にした人にあなたは何かができますか~

参加費 無料

2017年
10月15日(日)
13:00~16:00 (受付12:30)

会場 / 済生会新潟第二病院 10階会議室
〒950-1104 新潟市西区寺地 280-7

対象 / 西区内の医療・介護関係者

定員 / 120名

締切 / 10月10日(火)17時まで

問合せ / TEL:365-2437 (ステーション西)
TEL:260-8108 (ステーション西蒲二)

講師
めぐみ在宅クリニック
院長 小澤竹俊

※車で参加の方は、正泊実用車庫をご利用ください。
なお、駐車場は会場まで徒歩していたり、会場まで徒歩して下りてください。

プロフィール
1963年富山生まれ。昔の中で一番、苦しんでいる人のために働きたいと思い、医師を目指す。1987年富山県立富山大学医学部臨床医学科卒業。
1994年より新潟県立病院内科・ホスピス勤務。
1996年にはホスピス病棟長となる。
2006年めぐみ在宅クリニックを開設。院長として現在に至る。
「自分がホスピスで学んだことを伝えたい」との思いから、2000年より学校を中心に「いのちの授業」を展開。一歩一歩の経験も数多く行い、「ホスピスマインドの伝道師」として魅力的な活動を続けている。
2013年より、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクトを開始。
2015年4月には若者と共にエンドオブライフ・ケア基金を設立。理事就任。
参加者向けに、人生の最終段階の人に対応できる人材育成に努めている。

主催：新潟市在宅医療・介護連携ステーション西 / 新潟市在宅医療・介護連携ステーション西蒲二

(カ) 医療・介護関係者の研修

②在宅医療ネットワーク事務担当者会議（年4回）（C）

- ・市内21の在宅ネットワークの事務担当者の情報共有，ネットワーク間の連携を目的に開催
- ・H27年度は在宅医療連携拠点（モデル）事業により済生会新潟第二病院，斎藤内科クリニックの共催実施
- ・H28年度以降，在宅医療・介護連携支援事業の一つとして実施

③在宅医療ネットワーク情報交換会（年1回）（C）

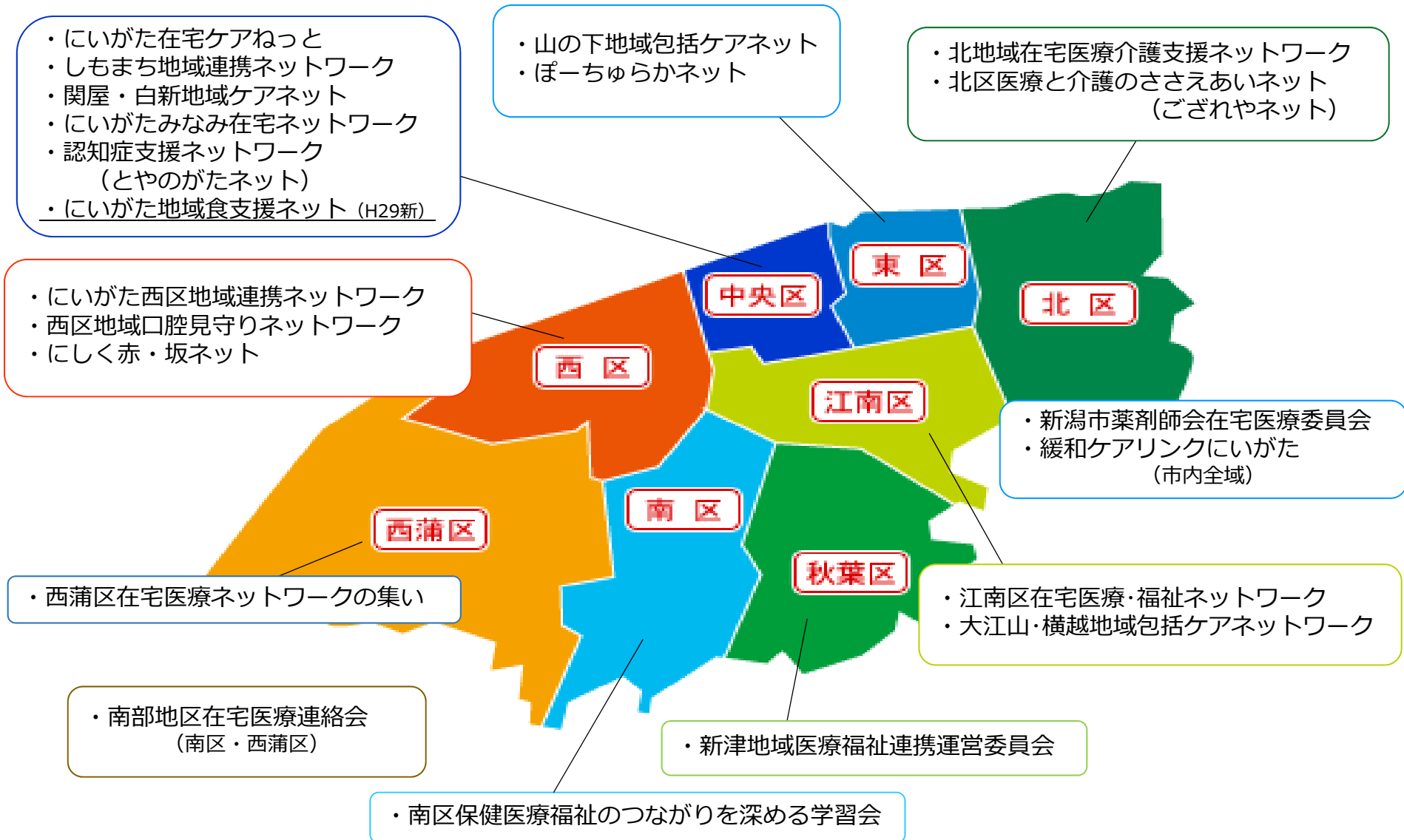
- ・在宅医療ネットワーク代表&事務担当者、行政、その他関係機関を一同に会し、ネットワーク相互の連携，情報交換を目的に開催
- ・H27は82名，H28は140名，H29は160名参加
「あなたの地域でやりたいこと」をテーマにGW



在宅医療ネットワーク…医療と介護の連携



在宅医療ネットワーク 21団体 (H30.3月)



在宅医療ネットワーク支援のあゆみ



H28～ 在宅医療NW事務担当者会議
在宅医療NW情報交換会
在宅医療・介護連携推進事業（地域支援事業）

H26～ 在宅医療NW事務担当者会議
在宅医療NW情報交換会
新潟県在宅医療連携モデル事業（地域医療再生基金）

H25～ 在宅医療NW活動支援事業（補助金拡充）

H23～ 在宅医療NW推進事業（市単補助金）

<在宅医療ネットワーク数の推移>

H24	H25	H26	H27	H28	H29
6	8	13	16	20	21

(キ) 地域住民への普及啓発

① 市民出前講座「医療と介護のおきがる座談会」(ST)

→地域の茶の間／老人クラブ／自治会／コミュニティ協議会etc
H27：37回 ⇒ H28：55回 ⇒ H29：58回

② 事業所向け在宅医療・介護の出前講座(市)

→市内企業・事業所
H29：4回

③ 働く人のための医療・介護セミナー(市)

→就労世代、夜間・休日開催
H29：6回

④ 在宅医療・介護区民公開講座(ST)

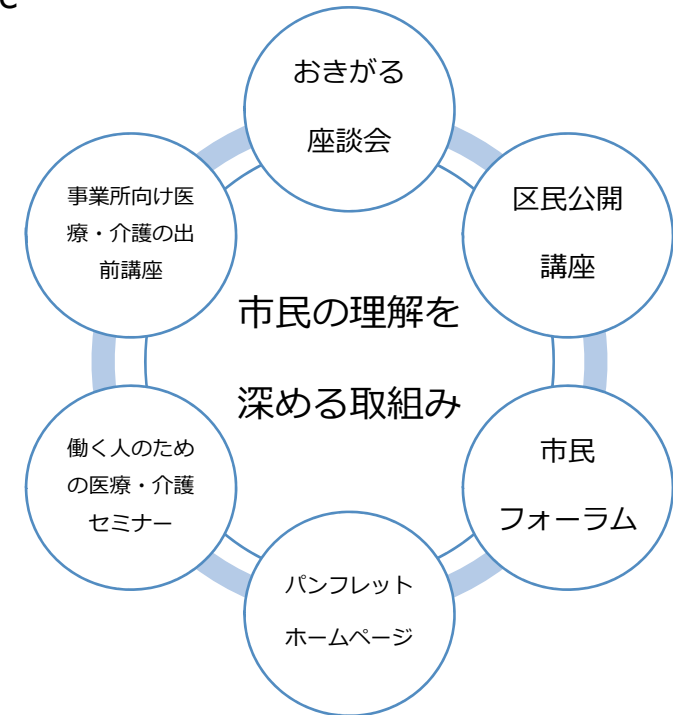
→連携ステーションが地域(区)ごとに開催
H29：16回

⑤ 市民公開講座(フォーラム)(C)

→年1回、全市対象に開催

⑥ パンフレット「よくわかる在宅医療・介護」(C)

⑦ 連携センターホームページ



(キ) 地域住民への普及啓発

① 市民出前講座 「医療と介護のおきがる座談会」

新潟市在宅医療市民出前講座



医療と介護の おきがる座談会



住み慣れた地域ですっと暮らし続けるために、今やっておくべきことは？
「医療・介護のサービスってどんなものがあるの？」「在宅医療ってなに？」
「在宅医療はどうすれば受けられるの？」・・・そんな疑問に、地元の医師や
病院の医療相談員、訪問看護師などの専門職がお答えします。
「かかりつけ医」をもつことなど、安心な生活につながるヒントを盛り込んだお話を
地域の集まり（地域の茶の間・サロン・自治会等）でお気軽に学んでみませんか。
地域の医療や介護の専門職が講師として伺います。

- 対象者 地域の団体やグループ（地域の茶の間、自治会など）
- 会場 申し込まれた団体が活動する会場で行います
- 時間 原則として平日（月曜日から金曜日）の午後1時から午後5時までの間で
おおむね45分間です
- 費用 無料です

●申込み方法と開催までの流れ

- ①開催希望日のおおむね3か月前までに、別紙の
申込書にご記入のうえFAX・郵便または電話にて
「新潟市在宅医療・介護連携センター（下記）」
にお申し込みください。
- ②開催日時や内容など打ち合わせるため、
申し込まれた方へ担当者が連絡いたします。
- ③当日、ご指定の会場へ講師・担当者がお伺いします。



お申し込み・お問い合わせ
新潟市在宅医療・介護連携センター
〒950-0914 新潟市中央区巻竹山 3-3-11（新潟市総合保健医療センター5階）
電話 025-240-4135 FAX 025-247-8856
Eメール renkei-center@med.email.ne.jp

市民出前講座「医療と介護のおきがる座談会」 ～目的・テーマの具体例～

退院後、普通に生活できるかな？
介護の相談にものってほしいけど、どうしよう？

具合が悪くなったらお家で診療して
くれるかな？
お医者さんに関きたいことがある人
だけど、なんでも聞いていいかな？

このお薬、これとこれと一緒に
飲んでも大丈夫？
かかりつけ薬同ってほんどう？

認知症の人にはどう接したらいいのかな？
認知症って予防できるのかな？

がんの治療や緩和ケアについて知り
たいけど、どこに聞けばいいの？
医療や介護ってどんなサービスがある
のかな？

(キ) 地域住民への普及啓発

① 市民出前講座 「医療と介護のおきがなる座談会」

- ・ 地域の茶の間，コミュニティ協議会，自治会など地域の団体を対象として実施
- ・ 講師は，地域の医療・介護関係者（ステーションが運営）
- ・ H27：37回、のべ1,200人
H28：55回、のべ1,800人参加



<これまでの主な開催実績>

対象者	内容	講師
地域の茶の間	地域包括ケアシステムにおける医療体制・かかりつけ医について	病院長
老人クラブ	大切なお口の健康，在宅医療・介護について	歯科医師
コミュニティ協議会	薬の正しい飲み方について（副作用について）	薬剤師
サロン	施設より在宅を望まれるあなた～在宅で受けられる医療について～	訪問看護師
市民団体	～住み慣れた地域で暮らすために～「在宅医療って何？」	MSW

(キ) 地域住民への普及啓発

②事業所向け「在宅医療・介護の出前講座」(申込型)

事業所向け「在宅医療・介護の出前講座」のご案内

知っておきたい 介護保険制度と在宅医療の知識

親の介護を理由に、これまでの働き方が続けられなくなり、「介護難職」をする人が年々増えています。
「家族に介護が必要になったら…」 「どんな介護サービスが受けられるの？」
「介護をしながら仕事を続けていくにはどうしたらいいの？」

みなさまの会社や事業所などに、テーマに応じた専門家(医師、看護師、ケアマネジャー、行政職員等)が伺います!

<テーマの例>

- 介護サービス・介護施設の内容と利用のしかた
- 医師や看護師が家族を支えてくれる「在宅医療・介護」について
- 3人に1人? 認知症の理解やつきあい方、早期発見のポイント
- かかりつけ医とは? かかりつけ医を持つことのメリット

新潟市内の事業者様へ

- 対象者 **新潟市内の事業者等**(平成29年度は10団体以内)
※申込み団体は20名以上の団体が対象です。
- 会場 申し込みいただいた事業者様でご用意いただいた会場
- 時間 日曜・祝日を除く午前9時～(夜間の開催も可能です)
- 費用 **無料** ※1団体につき、原則、年1回のご利用となります。
- 申込み方法と開催までの流れ
 - ・開催希望日のおおむね3か月前までに、申込書をご記入のうえ、新潟市地域医療推進課(下記)にお申し込みください。
 - ・詳細確認のため、担当者が連絡いたします。
(申込み希望の日程について、重複する場合など調整させていただくことがあります。)
 - ・当日、ご指定の会場へ講師、担当者が伺い、講演いたします。

【お申し込み・お問い合わせ】
新潟市保健衛生部地域医療推進課 (〒950-0914新潟市中央区紫竹山3-3-11)
TEL 025-212-8018 FAX 025-246-5672 chiiki.iryu@city.niigata.lg.jp

事業所向け「在宅医療・介護の出前講座」 ～目的・テーマの具体例～



親族に介護が必要になったけど、どうしよう!?
介護サービス・介護施設の内容とかって知ってる!?



医師や看護師が自宅で診療や看護を提供してくれる場合があるんだって!!
「在宅医療・介護」って知ってた!?



3人に1人が認知症になる可能性があるらしいよ!!
認知症の理解やつきあい方、早期発見について学ばないとね!!



普段、病気になった時に通う診療所を決めてないけど、かかりつけ医を持った方が良いのかな。どんなメリットがあるのだろうか。



(キ) 地域住民への普及啓発

③働く人のための医療・介護セミナー（企画型）

働く人のための医療・介護セミナー 知っていますか、今どきの医療と介護のカタチ

親の介護を理由に、これまでの働き方が続けられなくなり、「介護離職をする人が年々増えています。

「家族に介護が必要になったら・・・」「どんな介護サービスが受けられるの？」「お金はいくらかかるの？」「介護をしながら仕事を続けていくにはどうしたらいいの？」

もしもの時に備え、在宅医療・介護について学びましょう。

日時 | ① 3月12日（月）・② 3月13日（火）
18:30～19:30 ※両日同内容

会場 | クロスバルにいがた 4F講座室（中央区碓町通3ノ町2086番地）

※可能な限り公共交通機関をご利用ください

（駐車場が必要な場合は、周辺有料駐車場をご利用ください）

講師 | 新潟市在宅医療・介護連携センター

保健師・地域看護専門看護師 細道 奈穂子さん

定員 | 両日50名（先着順）

参加費 | **無料**



申込み | 2月28日（水）から参加申込書にて電話又はメール・FAXで地域医療推進課へお申し込みください。

【お申込み・お問い合わせ】

新潟市保健衛生部地域医療推進課（〒950-0914 中央区紫竹山3丁目3番11号）

TEL:025-212-8018 FAX:025-246-5672

メール: chiiki.iryo@city.niigata.lg.jp



「介護を理由に、これまでの働き方が続けられなくなり、介護離職をする人が年々増えています。家族に介護が必要になったら・・・」「どんな介護サービスが受けられるの？」「お金はいくらかかるの？」「介護をしながら仕事を続けていくにはどうしたらいいの？」

もしもの時に備え、在宅医療・介護について学びましょう。

日時 | ① 3月12日（月）・② 3月13日（火）
18:30～19:30 ※両日同内容

会場 | クロスバルにいがた 4F講座室（中央区碓町通3ノ町2086番地）

講師 | 新潟市在宅医療・介護連携センター
保健師・地域看護専門看護師 細道 奈穂子さん

定員 | 両日50名（先着順）
参加費 | **無料**

申込み | 2月28日（水）から参加申込書にて電話又はメール・FAXで地域医療推進課へお申し込みください。

【お申込み・お問い合わせ】
新潟市保健衛生部地域医療推進課（〒950-0914 中央区紫竹山3丁目3番11号）
TEL:025-212-8018 FAX:025-246-5672
メール: chiiki.iryo@city.niigata.lg.jp



(キ) 地域住民への普及啓発

③在宅医療・介護区民公開講座 (ST)

POINT 連携ステーションが企画・実施！

新潟市中央区 医療・介護の区民公開講座

住み慣れた地域でいつまでも
にいがた在宅看取り
サミットin中央区

参加費無料
先着**160**名様
(事前予約制)

[日時] ▶▶ **8月26日(土)**
開場 13:30 開演 14:00~16:20

[会場] ▶▶ **新潟県生涯学習推進センター ホール**
(新潟市中央区女池南3-1-2) 新潟県立図書館隣り
TEL: 025-283-1150

14:00 開会あいさつ 新潟市中央区 区長 石塚聖子さん

第1部 14:10~15:10 講演
「在宅ひとり死」Chizuko Uenoのすすめ
講師: 上野千鶴子さん

第2部 15:20~16:20 ハネルディスカッション
司会: 斎藤内科クリニック 斎藤忠雄さん
コーディネーター: 上野千鶴子さん
「在宅看取りを考える」
パネラー: にいがたの在宅看取りを支える専門職
在宅ケアクリニック川原町 塚田千代さん / 松田内科時整整科クリニック 松田正史さん
スギの産科おさき 産婦人科センター 藤原麻由 五十嵐あかね
訪問看護ステーションあさひ 山本和孝さん / 在宅ケアクリニック川原町 岡部繁子さん

16:20 閉会あいさつ みどり病院 病院長 成瀬 聡さん

お申し込みはお電話で **TEL: 025-243-4894 (新潟市役所コールセンター)**
7/16(日)~受付開始 受付: 午前8時~午後9時 (年中無休)

主催: 新潟市在宅医療・介護連携ステーション中央 問い合わせ: 025-211-3930
共催: 新潟市在宅医療・介護連携ステーション中央第二
にいがた在宅ケアネットワーク・斎藤内科クリニック

ST中央
(ST中央第二共催)

新潟市在宅医療・介護連携ステーション 東
新潟市在宅医療・介護連携ステーション 東第二

区民公開講座

認知症の医療と介護

2018年 **3月22日(木)**
午後**3時**~4時15分 (開場 2時30分)

参加無料

講演1 ひよとして、認知症? 気づきのポイント
新潟臨港病院 脳神経外科(認知症外来) 医師 鷲山 和雄 先生

講演2 もしも家族が認知症になったら ケアの方法と実際
あかりケアプランセンター 介護支援専門員 西本 円 先生

会場 東区プラザ 多目的ルーム2 東区下木戸1-4-1 (東区役所2階) **定員 60名** **事前申込 必要です**

参加申込 | 電話でお申し込みください
新潟市在宅医療・介護連携ステーション東 (025) **364-7321**
2月19日(月)より受付/定員に達し次第締切 土・日・祝日除く 午前9時~午後5時

開催主管 | 新潟市在宅医療・介護連携ステーション東
東区桃山町1丁目114-3 (新潟臨港病院 地域連携センター内)
担当/清治、小島

みんなの医療・介護 **NIC** **健康セミナー** × **在宅医療・介護の区民公開講座**

このセミナーは新潟市の事業
『新潟市在宅医療・介護連携推進事業』
と連携して実施しております。

14:00~14:35
第一 **健康寿命をおびやかす骨粗しょう症**
骨は私たちの体や日常の活動を支える大切な器官ですが、「骨粗しょう症」は50歳以上の女性の3人に1人がかかっていると言われている病気。多くの人がかかりやすいこの病気の原因について専門医から解説します!
大学大学院 医学総合研究科
[慶長寿学講座 特任准教授] 今井 教雄 氏

15:40~16:30
健康相談会
様々な測定器による健康チェックが受けられます!
看護師による「お薬」の相談や歯科医師・衛生士による「歯(虫歯)」の相談、栄養士による「栄養(食事)」の相談にお気軽にご参加できます。
骨密度測定・骨粗しょう症チェック
ストレスチェック・体組成測定
聞こえ測定・お肌の水分チェック
一泊一泊
[新潟市歯科医師会] [明倫短期大学]
[新潟県栄養士会] [パソコン補聴センター]
[株式会社共栄堂]
[ライフサポート] 大木洋子
栄養士 齋藤 真由美 / 看護師 五十嵐 里佳
[株式会社グアテ]
アイン薬局新潟市民病院 / 渡邊 典子
アイン薬局白田店 / 種崎 奈久

7日(土) **受付開始 13:30** **新潟市巻文化会館**
ホール(新潟市西蒲区巻甲635)

お問い合わせ窓口
NIC 巻
0256-72-2016
0256-73-2398
※17:30 ※日・祝日は除く
①名称 ②住所 ③電話番号
④お申し込みください。

参加特典 いっぱいあります!
定員 **先着 100名**
※定員に達し次第、締め切らせていただきます
参加費 **無料 & 参加特典** プレゼント

販売店会 ◆共催 新潟市在宅医療・介護連携ステーション西蒲 (西蒲中央病院内)
新潟県栄養士会 / 新潟県看護士会 ◆協力 アスタラス健康館 / ココ・コウイートン / ケン / 柳アプロモート

ST西蒲
(NIC共催)

ST東

(キ) 地域住民への普及啓発

⑤ 在宅医療市民公開講座 (フォーラム)

在宅医療市民公開講座

住み慣れたまちで 最期まで暮らすということ

終末期を迎えたとき、どこで過ごし、どのように過ごせるのか？
医療、介護はどこまでサポートしてくれるのか？
家族の負担は？ やっぱり病院が安心？
・・・知っていただければ、自分らしく納得のいく選択ができるはず。
在宅看取りを実現したご家族、医療・介護関係者の話を聞く市民の集いです。

I 基調講演
「最期まで家で生活するために」
川島 孝一郎 氏 (仙台住診クリニック 院長)
北里大学医学部卒業、東北大学大学院医学研究科修了。在宅で暮らしを営み続ける
医療を日限し、「仙台住診クリニック」を開業。東北大学医学部臨床教授(総合診療部)、
東北大学サイクロトロロン・ラジオアイソトープセンター研究教授、
厚生労働省「終末期医療に関する調査検討会」委員などを歴任。著書多数。

II パネルディスカッション
「医療と介護の連携 ～ 地域住民のために」
コーディネーター 水井 博子氏 (拜内内科総合内科医務 副院長)
パネリスト
訪問看護師 片岡 和江氏 (訪問看護ステーションかみだ 管理者)
ケアマネジャー 青柳 礼子氏 (在宅介護支援センター健康の家 主任介護支援専門員)
看取り経験家族 水部家勲英氏 (健康推進員 会長)

と き 平成28年3月21日(月) 午前9時30分(開場9時)

ところ 江南区福祉センターきらとびあ (江南区役所となり)
※駐車の場合は江南区役所駐車場をご利用ください。

申込み 3月14日(月)まで
新潟市役所コールセンター 025-243-4894
先着80名

お問い合わせ先 新潟市保健衛生部 保健課 地域医療推進課
電話 025-212-8018 chikiryu@city.niigata.lg.jp

H27年度
「住み慣れたまちで 最期まで暮らすということ」
江南区 80人

新潟市在宅医療市民公開講座

「老いて一人になったとき・・・」 ～NHKスペシャル「老人漂流社会」から学ぶ～

I 基調講演
「老人漂流社会」のプロデューサーが見た現実
板垣 淑子 氏
(NHK大型企画開発センター チーフ・プロデューサー)
1994年NHK入局。報道制作センター、仙台局、報道局社会番組部などを
経て、大型企画開発センター所属。主な担当番組は、NHKスペシャル
「ワーキングプア～働いても働いても豊かになれない(2006年)」
同「無縁社会～無縁死3万2千人の衝撃～」、同「終の住処はどこに
老人漂流社会(2012年)」などを制作。
2015年、放送文化基金賞個人賞を受賞。

II シンポジウム 「地域で家族がともにささえ合うために」
【出演者】
早通地域コミュニティ協議会 清水 博然さん
松田内科呼吸器科クリニック 松田 正史さん
新潟市社会福祉協議会 小原 美弥子さん

日時 10月1日(土) 13時30分～16時30分(開場12時30分)
会場 新潟市北区文化会館 ホール (新潟市北区東栄町1丁目1-5)
申込み 8月31日(水) から9月21日(水) まで
新潟市役所コールセンター 025-243-4894
定員 400名
★保育ルームをご利用いただけます(無料) 対象者:生後6か月～就学前児 定員:10名
※コールセンターで申し込みの際「保育ルーム利用希望」とお伝えください。

●主催 新潟市 新潟市医師会
●事務局 新潟市在宅医療・介護連携センター 電話 025-240-4135

H28年度
「老いて一人になったとき」
北 区 365人

在宅医療市民公開講座 in 西蒲区

生きる喜びパワーで みんな元気に！ ～みんなで考える地域の将来～

本市では、誰もが住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることができるように、医療や介護、生活支援などが包括的・継続的にサービス提供できる地域包括ケアシステムの構築を進めています。本講座は、元気に笑顔で歳を重ねるための取組みをご紹介します。今後の生活について考える機会として開催します。

基調講演 「ほほEMI介護の力」
講師 林家 こん平氏
笠井 咲氏
(ほほEMI)ラッパ代表取締役/林家こん平氏次女

パネルディスカッション
「みんなで考える！
西蒲区の『いま』と『みらい』」

パネリスト
福田 喜一さん 医療法人社団 湯東クリニック 院長
高野 朗 さん 地域包括支援センター中ノ口・湯東 管理者
梅川 望 さん 在宅医療・介護連携ステーション西蒲 MSW
(医療法人美彩会 西蒲中央病院 地域連携相談員)
堀内 正徳 西蒲区役所 参事 (健康福祉課長)
コーディネーター 眞島 福一さん 西蒲区社会福祉協議会 会長

と き 11月3日(祝) 13:30～16:00
ところ 西川多目的ホール (西蒲区曾根2046)
参加費 無料
申込み 10/13(金) から 10/27(金) まで
新潟市役所コールセンター 025-243-4894
定員 先着500名
※手話通訳、要約筆記、保育の対応もあります。
※保育を希望される場合は申込み時に「保育希望」とお伝えください。

主催 新潟市・新潟市医師会
後援 西蒲区在宅医療ネットワークの集い
【お問い合わせ】
新潟市在宅医療・介護連携センター (☎025-240-4135)

H29年度
「生きる喜びパワーで
みんな元気に！」
西蒲区 120人

(キ) 地域住民への普及啓発

⑥パンフレット「よくわかる在宅医療&介護」



新潟市

- ・在宅医療とは？
- ・在宅で受けられる医療・看護について
- ・介護保険を利用するには？
- ・どんな準備をしたらいい？

⇒区役所（健康福祉課）や
地域包括支援センター等に設置

⇒各種事業において参加者へ配布
（おきがる座談会／区民公開講座／市民公開講座／セミナー）

(キ) 地域住民への普及啓発

⑦連携センターホームページ

<http://niigata-rc.org/>

ホームページ掲載内容

◆医療資源情報検索

新潟市内1,562事業所へ医療資源調査し、1,084事業所から回答(69.4%)

◆市民向け

- ・在宅医療・介護連携推進に関する新潟市の取組
- ・相談窓口について
- ・イベントのご案内
- ・地域包括支援センターについて

◆関係者向け

- ・連携センター/ステーションについて
- ・在宅医療ネットワークについて etc

新潟市在宅医療・介護連携センター 1/2 ページ

文字サイズ 小 中 大

トップページ 医療・介護関係者さま 市民の皆さま

在宅医療・介護とは (厚生労働省)

新潟市の取り組みについて

医療と介護の両方を必要とする状態の地域で支援を必要とする方々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携して包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供する取り組みです。

当Webサイトから簡単にご記入・送信できる
医療資源調査 記入フォームを開設しました
連携センターから医療関係者さまへのお慶いとご案内

医療・介護関係者さま

連携センターからのお知らせ

- 2016年07月28日 連携研究会 勉強会
平成28年度第2回新潟地域病院連携会議の開催について (ご案内)
- 2016年07月27日 その他
医療資源調査 専用記入フォーム開設についてのお知らせ
- 2016年07月22日 ニューストピックス
新潟市在宅医療・介護連携センターにおける基本理念と基本方針、会長 難田

連携センター、連携ステーションについて

連携センターは、連携ステーションを統括・調整する機関です。医療・介護関係者からの相談窓口、連携・支援・情報提供に関して連携ステーションにて承っております。

連携ステーション紹介 連携ステーション一覧

在宅医療と介護の連携をサポートする
新潟市在宅医療・介護連携センター

■ 連携センターアクセス ■ 連携センターお問い合わせ

文字サイズ 小 中 大

トップページ 医療資源情報 市民の皆さま 医療・介護関係者さま 連携センター関連

在宅医療・介護とは (厚生労働省)

新潟市の取り組みについて

医療と介護の両方を必要とする状態の地域で支援を必要とする方々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携して包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供する取り組みです。

(ク) 在宅医療・介護連携に関する市区町村連携

①近隣市町村センター情報交換会の開催 (C)

⇒新発田市・燕市・弥彦村・三条市・阿賀町・五泉市ほかの市町村担当職員、コーディネーター（市町村事業センター／在宅医療推進センター）、地域振興局職員等が参加・情報交換（H28年度：1回，H29年度：1回開催）

②近隣市町村主催、県主催の情報交換会への参加 (C・ST・市)

⇒H28年度参加3回（燕市，新発田市，三条市）
H29年度参加4回（新潟県×2，燕市，三条市）

成果（H27～H29：第6期介護保険事業計画期間）

（1）在宅医療ネットワーク数の増加

- ネットワーク数 H27年度：16 H28年度：20 H29年度：21
- 形成支援等を目的とした研修会・情報交換会の実施回数・参加者数
 - ① 在宅医療ネットワーク事務担当者会議 H28年度：4回 H29年度：4回
 - ② 在宅医療ネットワーク情報交換会
H27年度：1回（82人） H28年度：1回（140人） H29年度：1回（160人）

（2）在宅医療・介護連携センター／ステーションの開設における医療・介護関係者の相談支援体制の強化

- 相談支援件数 H27年度（1～3月）：6件 H28年度：198件 H29年度（2月末現在）：163件

（3）在宅医療・介護連携センター／ステーションの企画・運営による医療介護連携促進の機会の充実

- 医療・介護関係者を対象にした研修会等の実施回数 H28年度：40件 H29年度：58件

（4）市民への在宅医療の理解を深める機会の充実

- 市民を対象とした講座の実施回数
 - <市民出前講座> H27年度：27回 H28年度：55回 H29年度：58回
 - <区民公開講座> H29年度：16回
 - <市民公開講座> H28年度：1回 H28年度：1回 H29年度：1回
- 市民延べ参加人数 H27年度：1,277人 H28年度：2,206人 H29年度（見込み）：3,632人

（5）在宅医療を支える資源量の増加

- 在宅療養支援診療所数（H25:42→H29:46）（厚生労働省）
- 訪問診療を実施する診療所数（H25:164→H29:186）（こいがた医療情報ネット）
- 在宅療養支援歯科診療所数（H26:58→H29:81）（厚生労働省）

課題と対策（H30～H32：第7期介護保険事業計画期間）

（1）在宅医療・介護に関する市民、医療・介護関係者への理解促進

⇒支援を必要とするすべての人（※）と支え手の理解・知識を深める機会の充実

⇒医療・介護関係者（医師・看護師等）への理解・知識を深める機会の充実

（※）高齢者・障がい者・子ども・若年性認知症・難病患者・がん患者など

（2）在宅医療の後方支援体制の確保

⇒地域連携強化事業における各地域ごとの病病・病診連携の機能強化

（3）在宅医療を支える医師・看護師等の医療・介護人材の確保

⇒在宅医療需要推計を踏まえた訪問診療医、訪問看護師を始めとした医療・介護人材の確保

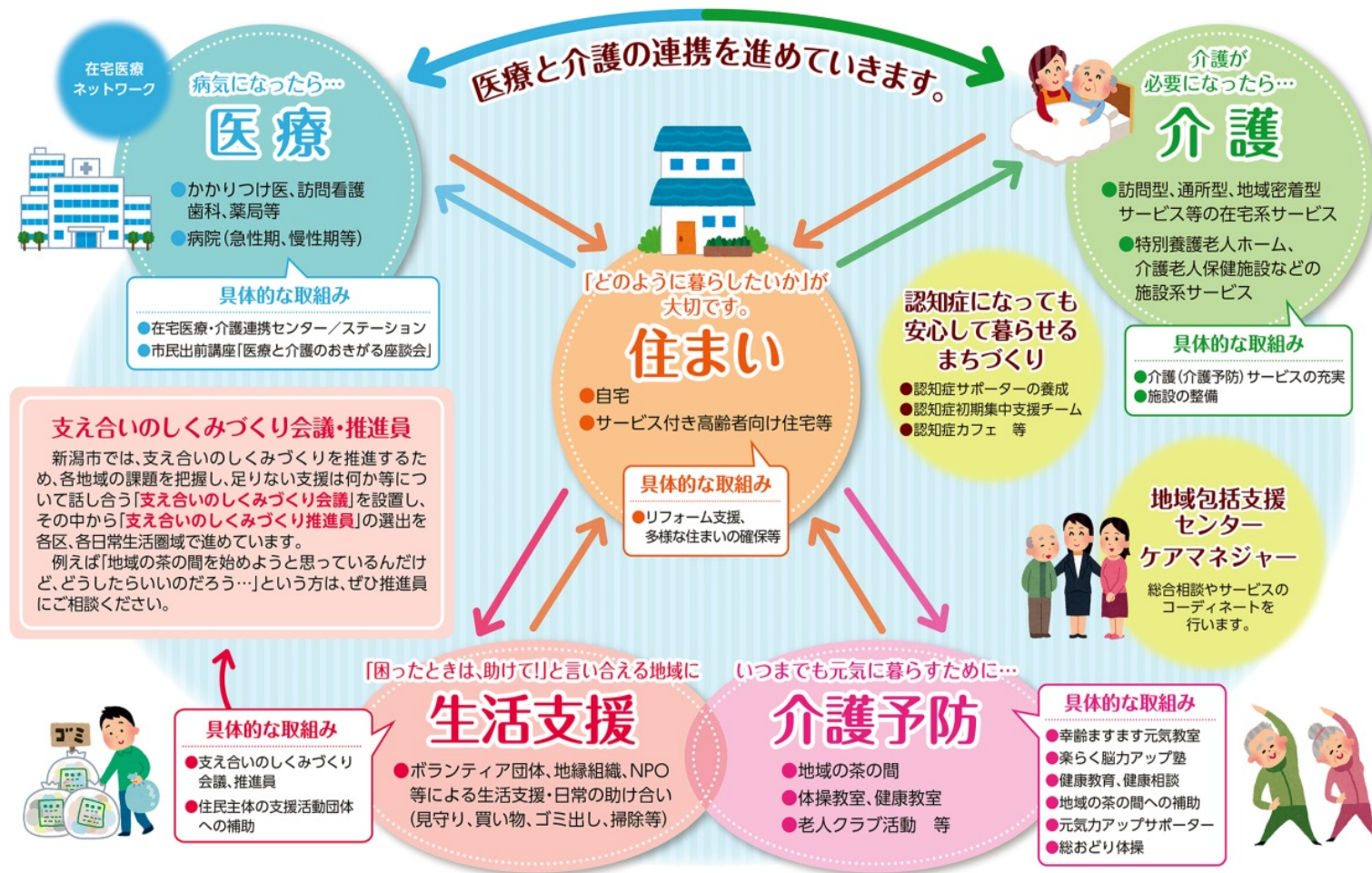
（4）医療・介護関係者と地域を支える多様な主体との切れ目ない連携体制の構築に向けた支援

⇒連携ステーションが企画するご当地連携研修会や、在宅医療ネットワーク情報交換会等において多様な主体との協議の場を提供する

（5）在宅医療・介護連携推進事業、連携ステーション・センターの周知

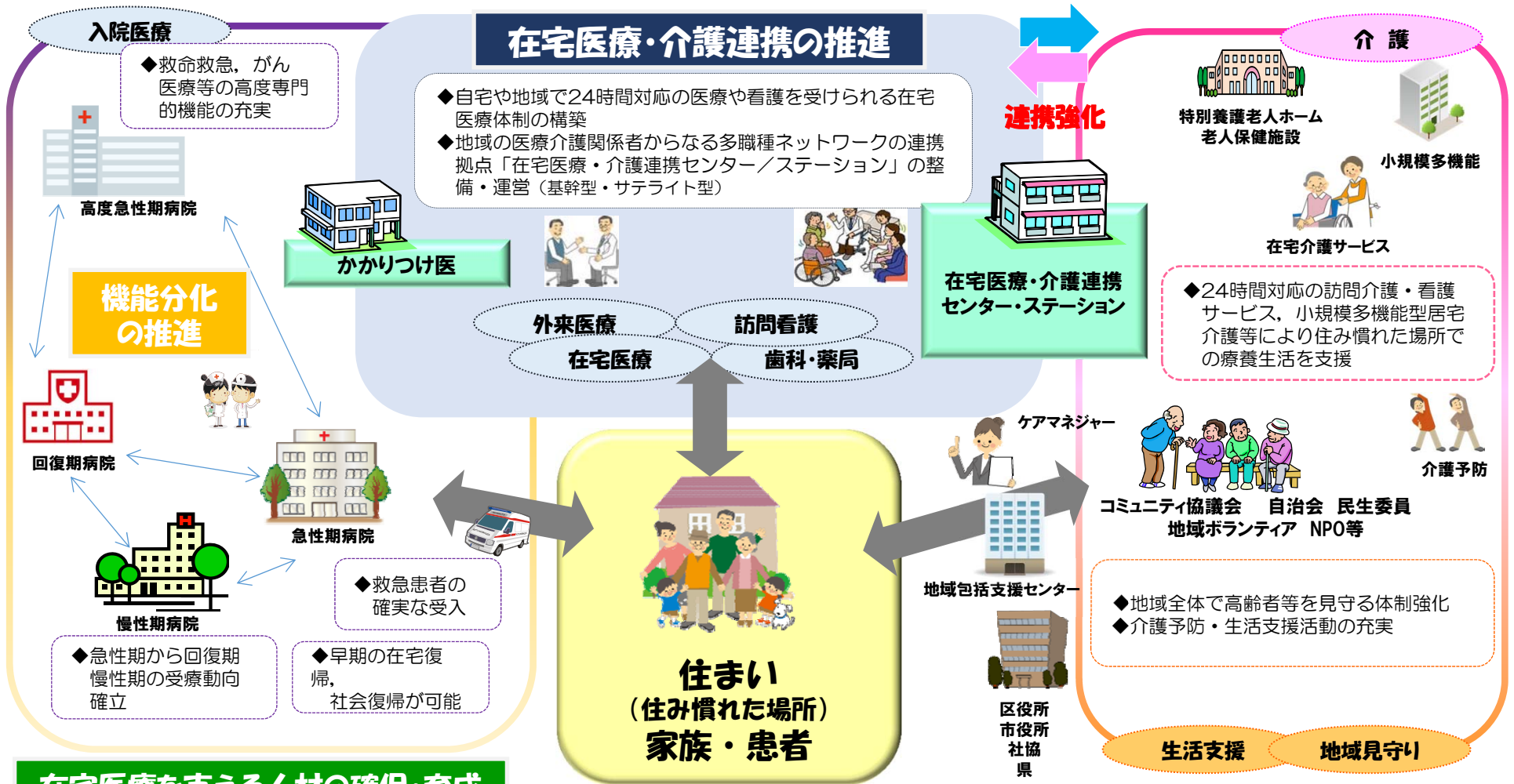
⇒各種会議への積極的な参加や具体的な支援例等の提示による周知活動の強化

地域包括ケアシステムの深化・推進



高齢者人口の増大や単身高齢者世帯、認知症高齢者の増加などにより、医療や介護ニーズ、日常生活支援に対するニーズが増大しています。しかしながら、生産年齢人口は減少し、担い手の不足が見込まれるため、団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）に向けて、予防・生活支援・介護・医療・住まい、この5つの要素が連携しながら、住み慣れた地域で、自分らしく、安心して暮らし続けることができるよう地域全体で高齢者を支える地域包括ケアシステムを**深化・推進**していく必要があります。

目指すべき医療・介護サービス提供体制



在宅医療を支える人材の確保・育成

在宅医療を担う医師・訪問看護師等の掘り起こし・人材確保・育成

市民への在宅医療・介護の普及

在宅医療・介護予防等の知識・関心を市民が持てるよう意識啓発を強化

基本施策

- 在宅医療・介護連携の推進
- 在宅医療を支える人材の確保・育成
- 医療機関の病床機能分化・連携
- 市民の理解を深める